



職場討議資料

ホームページに掲載しました



真実を知り、JR東労組東京地本をみんなの力

ホーム > 真実を知り、JR東労組東京地本をみんなの力で再建しよう！

18春闘の大敗北の指導責任の隠ぺいと元役員逃亡の真実！

JR東労組は、18春闘以前は約4万8,000名の組合員が結集していましたが、18春闘のストライキ方針と嘘とごまかしの組織指導によって、2018年3月21日の時点で、約2万4,000名の組合員が脱退する事態となりました。

なぜ、JR東労組は18春闘で会社から労使共同宣言を失効され、最終的に約3万5,000名もの組合員を失ってしまったのか、ということについては、後ほど詳しく述べます。

その前に、約3万5,000名もの組合員が脱退したという現実に対し、組合員を置き去りにしてしまったことを役員たる指導部が反省し、組合員に謝罪するとともに、もう一度「抵抗とヒューマニズム」の精神のもとにJR東労組の再建に立ち上がろうとしたのが、本部をはじめとする盛岡、秋田、仙台、千葉、横浜、大宮、高崎、新潟、長野地本という9地本の機関役員です。

その一方で、「いや違う。18春闘のストライキ方針は間違っていない。約3万5,000名もの組合員が脱退したのは会社からの前代未聞の不当労働行為によるものだから、労働委員会を活用して断固闘うべきだ」として18春闘で組合員を引きずり回した指導責任を一切認めようとしなかったのが、水戸、東京、八王子地本の3地本の一部機関役員です。

このように、JR東労組内部は18春闘の総括をめぐって本部と9地本対3地本というように、組織は二つに分断される結果となってしまいました。

当時、約3万名以上の組合員が、どこの組合にも所属しない現状の中で、約2年間に及ぶJR東労組内部の組合員不在の組織対立は、当然のようにさらなる組合員の離脱という負のスパイラルに陥りました。

このように不毛な議論を繰り返す中、昨年20春闘直前にJR東労組の水戸・東京・八王子地本の機関役員が中心となって分裂組合であるJR東日本輸送サービス労働組合（以下、サービス労組）を結成し脱退していくという事態となってしまいました。

この結果、JR東労組は約5,400名、分裂していったサービス労組は約2,800名という状況で、JR東日本には合計12組合が乱立し、すべてを足しても全社員の2割しか組合に加入していないという現状となり、8割の社員がゾアの組合に所属し、おなじような壁が物理的にかかってしまっています。

9月4日に開催された東京地本OB会再建総会において東京地本柳委員長の講演内容です。

当時の委員長のストライキ戦術ありきの春闘闘争から始まった17春闘、そして大量脱退を招いた18春闘。ストライキを巡っての本部大会での当時の三役のやりとり、そして労使共同宣言失効、20春闘目前に3地本が分裂したのか？等をまとめました。

討議資料の内容は以下の通りです

機関紙「JREU東京」にも掲載しています！

- ✓ 18春闘の大敗北の指導責任の隠ぺいと元役員逃亡の真実！
- ✓ 新生東京地本は「4本の柱」を堅持します！
- ✓ 窃盗！？横領！？ そこまでやりますか！？
- ✓ 各単組の預金まで勝手に解約する元役員たち！
- ✓ 議論なし！突如出てきた「17春闘でのスト権確立」！
- ✓ 労働組合の定期大会方針を勝手に変更した元役員たち！
- ✓ 「スト権は確立していない」と嘘をついたY委員長！

真実は2つもいらない！

何が真実かは読んでください！読めば理解ります！

真実を知り、JR東労組東京地本をみんなの力で再建しよう！